

人口問題研究所
研究資料第七三號

昭和二十六年一月二日

貸出用

東北三縣における産兒調節實態調査票未提出者の未提出理由
及び調査に對する意見の實狀について

厚生省 人口問題研究所

は し が き

本輯は昭和二四年度東北三県下における産児制限実態調査の際、附帯調査された副調査の集計結果である。

担当執筆者 篠崎 技官

昭和二六年一月一日

人口問題研究所

一 序

昭和二四年六月から七月にかけて東北三県下で実施した産児調節実態調査の際、種々の理由で調査洩れとなつた人々に対し、係員の面接により若干の参考事項の調査を行い、どういふ理由で調査に依りなかつたかを明きらかにしようと試みた。本報告はその結果集計報告である。

右調査は青森、岩手、宮城県下の各十ヶ村、計三十ヶ村居住の夫婦（年令満十五才より四十九才までの妻）に対する悉皆調査であつたが、調査洩れ又は調査票を提出しなかつたものは青森県四六三、岩手県七六六、宮城県八四四、計二、〇七三夫婦であつた。此等の人々の中、係員の面接によつて何

等かの意見を得ることが出来たのは、青森県 三四二（七三・九％）、岩手県 六三七（八三・一％）、宮城県 二一一（二五・〇％）計一、一九〇（五七・四％）で、あとの人々はやはり依然として回答を得ることが出来なかつた。然し此等残りの人々は調査そのものに対して積極的の意見を言わないで、係員よりの参考報告によれば調査を忌避するというよりもむしろ黙認している部類の人々だと言ふことである。

斯く副調査票によつて調査そのものに対する意見を求めたのは、一般に配票調査には未回収票が多く、ために調査結果の解釈に多くの未知数を残すことが多いからである。

二 調査票未提出の理由

各県別に調査票の未提出の理由の割合を示すと才一表の如く、この中で不明とあるは未提出理由について回答をしなかつた人々で、調査事項の意味が分らないと答えている人々とは異なる。従つてこの不明者を除けば、青森県、岩手県では調査項目それ自身が分らないと言ふ人々が一番多い。處か宮城県では興味がないと答えた人々が一番多い。次に才二番目として、青森県、岩手県では興味がないと答えているが、宮城県では正直に書けないからと言つてゐる。更に前記二県では難しいからと面倒臭いとか言ふ人々が之に次いでゐるが、宮城県では才三番目に分らないと答える人々が出てゐる。此處に前記二県と宮城県の調査票未提出者の理由に差があることが分るが、産見調節実態調査のようなものを通じてみた社会意識の進歩性の問題として興味がある。更に夫の年令別に見ると、青森県では五〇才以上の老年層に分らないと答える人々が多く、四〇才―四九才中年層は一番低い割合を示している。之に反して岩手県では中年層（四〇才―四九才）に分らないと言ふ人

の割合が一番多く、老年層は寧ろ二九才以下の若年層より少い。宮城県では実数そのものは少いのであるが率としては老年層が高い。調査事項を難しいと答えた人々は青森県で若年、老年に多く、岩手県は若年、壯年へ三〇才―三九才に比較的高い。宮城県では二〇―二四才、三五―三九才に若干示された丈で他の年齢層にはなかつた。面倒臭くて調査票を提出しなかつた人々は、何れの県でも中老年層が多い。興味の対象として本調査を考えた人々は青森、岩手の両県では各年齢とも略同様の割合を示しているが、宮城県では若年層に多い。次に主観的に斯る調査を嫌う人々は青森県では若年、老年に高く、岩手県では壯年、老年に多い。宮城県では率としては若年に多く示されているが、此處では老年層が嫌っていないと言ふことが目立つている。最後に調査事項について正直に書けないと言ふ良心的な人々がいるが、これは青森県で壯年層にのみ見られ、岩手県でも壯年、老年層に見られる。この傾向は宮城県でも見られ、結局年齢別に見た調査未提出者として問題となるのは若年層と老年層であることが分る。勿論、中年層、壯年層にも未提出理由の多いものはあるが、面倒だからとか、興味が無い等と言ふ理由が主で、調査方法や調査事項について考慮しなればならない内容のものではない。また中年層には正直に書けないと言ふものも比較的率として多く示されており、これは前記二事項の理由と対蹠的のものであるが、調査方法や調査事項の改善を必要とする理由ではない。われわれはむしろ分らないと言ふ人々や、特に難しいと答えている人々に對して、平易な調査事項や文章を工夫する必要があることを痛感する。

三 調査に対する意見

元来、斯る産児調節に關する調査は、必然的に性の問題に觸れねばならないが、現在まで、夫婦

の性に対しては、つとめて之を口にしないことが社会道徳的に慣習化されている。この様な禁制を破つて何等かの眞実の妊娠生理状態、性生活を実態調査するのであるから、元より歓迎する可き性質のものでないことは当然である。しかも、猶且つこれを調査して白日下に、その眞状を統計的に示さんとすることは、産児調節と言う問題が広く人口問題と言う国家社会的見地からみて重大なる要素となつた。日本の現実が其處にあるからに外ならない。従つて本問題を眺める視角が個人によつて異なるにつれて、斯る調査に対する是非判断の根拠も違つて出て来ている。

産児調節と言ふことが、やはり個人的又は家庭的の出来事として出発し、しかもその個人の感覺と言うものも尊重しなければならぬ民主化途上にある現在の日本にとっては、この調査に対する一般人の意見をも尊重しなければならぬであろう。

斯る意味に於いて、オ一表に調査に対する意見を分類集計した結果表を示すこととする。これに依れば、青森県では、調査しても意味がないと言うものが四三・三%あるが、殆んどこれに近い人々、即ち四二・七%は逆に調査はやる可きであるとして、対立している。積極的に調査を否定している人々は一三・二%に過ぎないが、岩手県に行くと、調査しても意味がないと消極的に否定する人々が圧倒的で五五・九%を占めた。そして積極的に否定した人々は一六%で賛意を表したものは〇・八%に過ぎないのである。残余の二七・三%は何等意志表示を示さなかつた。宮城県では消極的に調査しても意味がないと答えた人々は四九・八%で約半数に近く、積極的に調査をやる可きでないと言ふ人々が二八・九%で、逆に賛意を積極的に表明したものは二一・三%で態度不明のものは居なかつた。要するに本調査が性質上、又この様な調査を初めて施行された関係上、消極的に調査を拒否せんとする態度の人々が各県とも多いことには驚く程の問題ではないが、積極的に調

査はやる可きでない」と答える人々が、一番進歩性があるかに見えた宮城県の調査洩れ及び調査表未提出者に最も多くいることは、下度、東京都に於ける調査で「産児調節の不実行理由」中、主観的に斯る産児調節を嫌厭する人々が一四・五%でかなりの率を示したのと対比して興味あるものがある。斯る副調査表の結果表のみを見て調査そのものの価値を云々することは無意味であるかも知れない。と言うのは、残りの一万七千人以上の人々は調査に賛意を表して、一応正調査表を提出してあり、此等の人々は今述べたような理由、又は調査当日何等かの理由で不在のため調査表を提出しなかつた人々で、元来調査そのものに好意を持った人々ではないからである。更に副調査表は前迷したように五七・四%しか集らず、此等の中四二・六%の人々の意見も不明であるから断定的なことは謹まねばならないが、参考までに一応調査総数より眺めると、宮城県六一七〇組中、消極的及び積極的に反対した人々が一六六組で、二・七%、岩手県七三三〇組中、四五八組で、六・三%、青森県六五九五組中、一九二組で、二・九%となる。これに依れば青森、宮城は大差はないが、岩手県が調査そのものに対して如何なる理由かは別としても、調査を拒否する態度の人々が一番多い。斯る岩手県の六・三%の率は、東京都心の積極的に産児調節を行わないと言う人々の調査総数の率と比較しても、東京都心では七・三%、東京都近郊市町村では四・八%、総平均五・七%より上廻っていることは注目し得る。

従つて都市では調査表にはつきりと産児調節反対の意志表示を示すのに反して、地方の農山村では調査表を出さないことによつて、その中で調査そのものに対する意見として反対を表明していることになるのである。

孰れにしても、二%より七%の産児調節の強固な反対者が存在することは確實のことのように思

われるのである。

更に年令別に見ると、青森県では消極的に調査を拒否しているものが五〇才―五四才の老年層に最も多く、次いで四〇才―四四才の中年層、三〇才―三四才の壮年層、二〇才―二四才の若年層の順になつてゐる。そして同じ老、中、壯、若年の層でも後半の年令層へ二五才―二九才、三五才―三九才、四五才―四九才、五五才以上)では寧ろ三〇%代で低く示されてゐる。然し岩手県では老年層は調査を消極的に拒否するものが一番少く寧ろ若壯年層の方に多く、宮城県は壯中年層に拒否するものが多く示されてゐる。又積極的に反対を表明する人々は青森県で老年層、若年層に多く壯中年層は少い。岩手県では壯年層が一番反対し次が老年層となつており、宮城県では青森県と同様な実状であるが一般にその率は高く示されてゐる。次に積極的に調査を支持する人々を年令別に見ると青森県では老年層を除き各年令層の人々が同様な割合で賛意を表し、岩手県では中年層に少数の賛成者を見るのみで他の年令層にはなく、宮城県では若壯年層の方に賛成者が多い。要するに反対者は年令別に若、老年層が多く賛成者は壯中年層に多い傾向を看取することが出来よう。

四 総括

副調査表に示された調査そのものに対する見解は地域的な差があること、年令的にも異つたものがあることは以上の通りであるが又職業別に見れば、一般に斯る産児調節と言ふものの時代的意義に早くから認識し易い俸給生活者や、自由業者が賛意を表するものが多代りに、調査のみで満足しないと言ふ立場から又積極的な反対意見を出してゐるものも少くない。その他の職業の人々は一般風潮に従つた見解をそのまま出してゐると言ふ傾向があり、従つて副調査表に見られる賛否両意

見は、ある一村でその様な風潮があると、その村、部落は凡て同様な意見を述べており、個人々々の判断の下に示されたものとしては意見が揃い過ぎていると言うことが考えられる。

又特別な意見を述べたものとしては、産児調節は、農家では四〇才以後の人々は全部実行さす可きであるとし、その理由としては、四〇才以後に子供を持つても、その子が二〇才になるまで親は生きて行けるかどうか、又は生きられても一人前に働けるかどうか疑問であると言うのである。従って生み盛りの人々に調節を実行させるのもよいが、寧ろ産み終りを早く切り上げるようにす可きであると言うのである。又次の様な見解を述べた人もある。即ち優生学上よりの産児調節を徹底的に行い好ましき人々には養育費を支給してもよく、食しき人々には一定年令に達した児童がある時には、合宿養育所を作つて育て、二〇才になった人々には産児調節による特別結婚教育を行う可しとするものであつた。

然し概して一般人の意見はよき指導をと言うことが産児調節については圧倒的に多数であり、その点については賛成者も反対者も共に一致している。

従つて自然的放任の下に産児調節を説くことについて一考を要するものかあろう。

第一表 調査票未提出の理由

青森県

	19才	20才	25才	30才	35才	40才	45才	50才	55才	計
分らないから		1 (14.3)	4 (7.0)		8 (10.1)	3 (5.3)	3 (5.6)	3 (16.7)	4 (50.0)	26 (77.6)
難しいから		1 (14.3)	3 (5.3)	1 (1.6)	2 (2.5)	2 (3.5)	4 (7.4)		1 (12.5)	14 (41.1)
面倒だから				1 (1.6)	4 (5.1)	1 (1.8)	5 (9.3)	1 (5.6)	1 (12.5)	13 (38.8)
興味がなから		1 (14.3)	2 (3.5)	3 (4.8)	3 (3.8)	2 (3.5)	3 (5.6)	1 (5.6)		15 (44.4)
この種の調査をされるのが嫌だから			3 (5.3)	2 (3.2)	1 (1.3)		1 (1.9)	1 (5.6)	1 (12.5)	9 (26.6)
正意に書けなから				1 (1.6)	1 (1.3)				1 (12.5)	3 (9.9)
その他										
不明		4 (52.1)	45 (78.9)	54 (82.2)	60 (75.9)	49 (85.9)	38 (70.2)	12 (66.5)	0	262 (76.6)
計		7 (100.0)	57 (100.0)	62 (100.0)	79 (100.0)	57 (100.0)	54 (100.0)	18 (100.0)	8 (100)	342 (100.0)

調査票未提出理由

岩手県

	19才	20才	25才	30才	35才	40才	45才	50才	55才	計
分らないから		14 (66.7)	41 (51.9)	34 (43.0)	50 (42.4)	110 (64.0)	72 (64.9)	16 (40.0)	4 (26.7)	342 (53.7)
難しいから		2 (9.5)	6 (7.6)	8 (10.1)	19 (16.1)	15 (8.7)	8 (7.2)	2 (5.0)	0	61 (9.6)
計		20 (100.0)	25 (100.0)	30 (100.0)	35 (100.0)	40 (100.0)	45 (100.0)	50 (100.0)	55 (100.0)	

調査系未提出理由		宮 城 縣											計				
香割だいから	2 (9.5)	8 (10.1)	6 (7.6)	14 (11.9)	15 (18.7)	13 (11.7)	7 (7.5)	1 (6.7)	66 (10.4)								
興味かないから	2 (9.5)	19 (24.0)	21 (26.6)	23 (19.5)	24 (13.9)	11 (11.0)	9 (22.5)	5 (33.3)	114 (17.9)								
この種の調査で あるのか嫌だから	1 (4.8)	3 (3.8)	6 (7.6)	9 (7.6)	7 (4.1)	7 (15.2)	3 (7.5)	2 (13.3)	38 (6.0)								
正確な香ではないから		1 (1.3)	4 (5.1)	3 (2.5)	1 (0.6)		2 (5.0)	1 (6.7)	12 (1.9)								
その他		1 (1.3)					1 (2.5)	2 (13.3)	4 (0.5)								
不明																	
計	2 (100.0)	21 (100.0)	79 (100.0)	79 (100.0)	118 (100.0)	172 (100.0)	111 (100.0)	40 (100.0)	15 (100.0)	637 (100.0)							

調査系未提出理由		宮 城 縣											計					
分らないから	~19才	20才 ~24才	25才 ~29才	30才 ~34才	35才 ~39才	40才 ~44才	45才 ~49才	50才 ~54才	55才 ~									計
差しいから		1 (10.0)			2 (5.4)	3 (7.5)	2 (5.6)	2 (18.2)										9 (4.3)
香割だいから						2 (5.0)	3 (8.3)											6 (2.8)
興味かないから		2 (20.0)	2 (5.7)	2 (5.1)	3 (8.1)	4 (10.0)	5 (13.9)											18 (8.5)
この種の調査で あるのか嫌だから		1 (10.0)	2 (5.7)	1 (2.5)	1 (2.7)		1 (2.8)											6 (2.8)
正確な香ではないから			2 (5.7)	4 (10.3)	1 (2.7)	2 (5.0)		1 (9.1)	1 (5.0)									11 (5.2)
その他				1 (2.5)	1 (2.7)													2 (0.9)
不明	1 (100.0)	6 (60.0)	29 (82.9)	29 (74.5)	28 (75.7)	29 (72.5)	25 (69.4)	8 (22.7)	1 (5.0)									156 (74.1)
計	1 (100.0)	10 (100.0)	35 (100.0)	39 (100.0)	37 (100.0)	40 (100.0)	36 (100.0)	11 (100.0)	2 (100.0)									211 (100.0)

第三表 調査に対する意見

青森県

	19才	20才 ~ 24才	25才 ~ 29才	30才 ~ 34才	35才 ~ 39才	40才 ~ 44才	45才 ~ 49才	50才 ~ 54才	55才 ~	計
調査しても 意味がない		3 (42%)	20 (35.1)	30 (48.4)	31 (39.2)	31 (54.4)	20 (37.0)	10 (55.6)	3 (37.5)	148 (43.3)
調査はやる可 きでない		1 (14.2)	9 (15.8)	7 (11.3)	15 (12.0)	3 (5.3)	6 (11.1)	3 (16.6)	0	44 (12.2)
調査はやる可 きである		3 (42%)	28 (49.1)	25 (40.3)	33 (48.8)	23 (40.3)	28 (51.9)	5 (27.8)	1 (12.5)	146 (42.7)
不明		0	0	0	0	0	0	0	4 (50.0)	4 (1.8)
計		7 (100.0)	57 (100.0)	62 (100.0)	79 (100.0)	57 (100.0)	54 (100.0)	18 (100.0)	8 (100.0)	342 (100.0)

岩手県

	19才	20才 ~ 24才	25才 ~ 29才	30才 ~ 34才	35才 ~ 39才	40才 ~ 44才	45才 ~ 49才	50才 ~ 54才	55才 ~	計
調査しても 意味がない	2 (100.0)	11 (52.3)	52 (65.8)	35 (44.3)	60 (50.8)	124 (73.3)	58 (52.3)	10 (25.0)	2 (13.3)	356 (55.9)
調査はやる可 きでない		3 (14.3)	11 (13.9)	20 (25.3)	26 (22.0)	22 (12.8)	12 (10.8)	6 (15.0)	2 (13.3)	102 (16.0)
調査はやる可 きである						1 (0.5)	1 (0.9)			2 (0.8)

